



日本手術看護学会認定の手術看護実践指導看護師と 日本麻酔科学会認定の周術期管理チームに 当院の手術室看護師2名が合格しました！



手術看護実践指導看護師

目的：手術看護の質の向上に寄与する
役割：「手術看護の質向上」「実践力の向上」「チームの指導的役割」を担う
日本手術看護学会HPより



手術看護実践指導看護師
中村 京子

手術看護は、患者さんの手術が決定した時から始まっています。外来で診断され手術目的で入院する（術前）、手術を行う（術中）、そして手術後から退院、外来でのフォローまで（術後）、この期間を周術期といいます。当院では、術前の看護を外来看護師に委ねている現状があります。今後は、専門性を発揮し、患者さんが不安なく手術が迎えられるよう、周術期管理チーム看護師とともに取り組んでいきたいと思ひます。そして、手術には器械を渡す器械出し看護師と記録や患者さんの全身状態を観察する外回り看護師がいます。手術室看護師の経験年数により知識にも差があります。ですが、患者さんに対し行う看護に差が出てはけません。そのため、手術看護実践指導看護師としてメンバーへの育成を行い、質の高い手術看護が提供できるように活動していきたいと思ひます。

周術期管理チーム

設立背景：周術期診療の質の向上
役割：麻酔科医の診療内容についてのダブルチェックや周術期リスクの評価、他の診療スタッフとのコーディネート等
日本麻酔科学会HPより



周術期管理チーム
西浦 ともこ

手術室での看護というと、手術中のことばかり目が行きがちです。安全な手術の進行や過不足のない手術準備はもちろん大切ですが、『手術中だけ患者さんに関わる』という元来の手術室看護では、個々に合わせた安全で安心な手術の提供は行えません。周術期医療の質の向上のためには、手術前からの基礎疾患等のリスク管理や、多職種との連携を築くことがとても大切です。周術期管理チームの認定を受け、今後は麻酔科医とともに麻酔科外来を立ち上げ、患者さんの麻酔に対する理解への補足、麻酔方法の選択、麻酔リスク評価の補助をしていきたいと考えています。また、多職種との連携を密に行い、質の高い周術期医療の提供が行えるよう進んでいきたいと思ひます。

患者サポートセンターより

甲府共立診療所のご案内

診療科：内科・甲状腺外科・乳腺外科・泌尿器科
整形外科・心臓血管外科・耳鼻科・小児科
皮膚科・眼科

甲府共立診療所（代表）055-221-1000
（平日・受付時間内・小児科発熱者対応問い合わせ先）
電話での対応時間 9：00～17：00

- 診療科は、日によって変動がありますので詳細はお問い合わせください●
- 医療機関からの紹介・相談対応は、患者サポートセンターにて承ります●
直通 055-226-3133 FAX 055-221-0006
[対応時間 月～金 9：00～17：00 土曜日 9：00～13：00]

- 入院中の患者に関する退院支援等の問い合わせ●
直通 055-226-3135 [対応時間 月～金 9：00～17：00 土曜日 9：00～13：00]

【休診】木曜日の午後・土曜日の午後・第4土曜日・日曜・祭日・5月1日・年末年始（12月29日～1月3日）

甲府共立病院のご案内

診療科：外科・肛門外科・産婦人科・精神科
緊急患者対応

※精神科は、完全予約制です。現在、新患の受け入れは中止しております。

甲府共立病院（代表）055-226-3131
（緊急受診患者・発熱者対応問い合わせ先）
24時間電話相談可



地域連携だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように



目次

- P2 地域に根ざした外科診療を目指して
- P3 産婦人科の紹介
- P4 手術室看護師の紹介
- p4 患者サポートセンターよりお知らせ

2022
3
MARCH



地域に根ざした外科診療を目指して

当科は創設以来、地域に根ざした一般外科診療を目指して幅広く対応してきました。その後、専門分化に伴い、現在は5名の常勤医を中心に消化器疾患全般に対する手術、治療を中心に診療を行っています。

当科では腹腔鏡を用いた鏡視下手術に自信をもち、一人でも多くの手術を要する患者さんに提供できるよう積極的に取り組んでおり、緊急手術も含めて可能な限り腹腔鏡による身体に優しく、負担の少ない手術を心がけております。

腹腔鏡下手術の対象疾患は大腸癌、胆嚢結石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアなどですが、一部の胃癌や他の疾患でも腹腔鏡で手術が可能な場合は腹腔鏡下による手術を行っています。

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術よりも創が小さいため、患者さんの身体的負担が少なく、回復も早い反面、非常に高度な技術が必要とされる手術です。

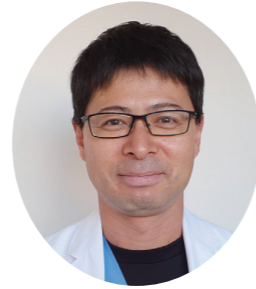
特に大腸癌に対する腹腔鏡下手術に力を入れており、当科では直腸癌手術で有名な虎の門病院大腸外科のエキスパートのもとで研鑽を積んだ、日本内視鏡外科学会技術認定医である杉田を中心にチームを組み、安全で精密な手術を安心して受けていただけるよう日々精進しております。

緊急手術についても随時対応しております。当院では年間約3500件の救急車を受け入れており、また、地域の開業医の先生方からも急性腹症を中心に数多くのご紹介を頂いております。

高齢者や基礎疾患、複雑な社会背景をお持ちの方に対しても、循環器内科や消化器内科を中心に他診療科、コメディカルスタッフ、ソーシャルワーカーと連携をとりながら患者さんにベストな治療を提供できること、手術日程の調整がしやすく、臨機応変に対応することも小回りの利く中規模病院当院の強みであると考えております。また、当院は地域包括ケア病棟を保有しており、当科術後患者さんにおいても積極的にリハビリを取り入れた上で、必要時は他急性期病院に比べて比較的な長めの入院期間をとって退院後の生活の質(QOL)向上を念頭にした調整を行うことも可能です。



質の高い手術治療、および術後の在宅復帰へ向けたケアを通じて、当科はこれからも地域の先生方、患者さんにお役に立てるように努力してまいります。当科が最も自信を持って得意としている大腸癌に対する腹腔鏡下手術はもちろんのこと、年齢や基礎疾患、社会背景などに関わらず、どのような症例でも可能な限り対応させていただきますので、お困りの際はなんなりとご相談を頂ければ幸いです。



甲府共立病院外科科長
杉田 貴仁

甲府共立病院産婦人科の紹介

1974年に開設され、今年で48年目となる当院の産婦人科は、途中何度か医師体制の困難にも見舞われましたが、他科や大学病院の応援もいただいて危機を乗り越え、2021年4月から産婦人科常勤医師4名体制で安定して運営できるようになりました。

2000年に開始した婦人科腹腔鏡手術は、年々件数を増やし、2020年は年間60件、うち全腹腔鏡下子宮全摘出術は14件となりました。

当院は、県内産婦人科で腹腔鏡手術を行っている数少ない医療機関のひとつです。

腹腔鏡手術をご希望の患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。緊急の腹腔鏡手術にも対応しています。

骨盤性器脱については、自己着脱式ペッサリーの指導に加え、根治術として腔式子宮全摘術および前後腔壁形成術を行なっています。

分娩は、少子化に伴い、当院でも分娩数が徐々に減少しています。一方で、妊婦の出産年齢の上昇に伴い、様々な合併症のある妊婦が増えてきています。また精神科疾患合併妊婦、育児困難や経済的な困難を抱える妊婦も増えていきます。

当院産科の強みは、他科の医師や、種々の専門知識と技術を持ったスタッフたちとともに、妊婦を包括的、継続的な支援できることです。必要に応じて、山梨大学医学部附属病院、山梨県立中央病院とも連携をとりながら、周産期診療にあたっています。

現在、分娩数の制限は行っておりませんので、妊婦のご紹介もいただければ幸いです。

子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染を予防するワクチンの積極的勧奨が再開されます。当科でも4価ワクチン(ガーダシル®)の定期接種をしています。また、任意接種となりますが、子宮頸がん予防効果が高い9価ワクチン(シルガード9®)の接種も行います。ワクチン接種と子宮頸がん検診の重要性を、広く知らせていきます。

今後とも、甲府共立病院産婦人科をよろしくお願いいたします。

